

平成30年度特別支援教育に関する実践研究充実事業  
 (次期学習指導要領に向けた実践研究)  
 成果報告書 (概要)

受託団体名
熊本県教育委員会

## 1 指定校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
熊本県	知的障害		くまもとけんりつくまもとしえんがっこう 熊本県立熊本支援学校
熊本県	知的障害		くまもとけんりつあらしえんがっこう 熊本県立荒尾支援学校
熊本県	知的障害		くまもとけんりつきくちしえんがっこう 熊本県立菊池支援学校

## 2. 事業の実績

## (1) 事業の実施日程

実施時期	実施内容	評価事項
平成 30 年 4 月	第 1 回研究指定校打合せ (熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校)	熊本県教育庁特別支援教育課と研究指定校である熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校の 3 校で、今年度の実践研究充実事業の取組の方向性について共通理解を図った。「実践研究充実事業の中間報告会 (以降、中間報告会)」での報告内容について協議するほか、新学習指導要領「小・中学部各教科内容表」の理科、社会、音楽の進捗状況について確認及び表記等の統一を図ることができた。
平成 30 年 5 月	第 2 回研究指定校打合せ (熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校)	中間報告会での 3 校の実践発表についてのポスター内容の検討や新学習指導要領「小・中学部各教科内容表」の外国語活動、外国語科、職業・家庭について協議した。各教科内容表は活用を想定して作成し、完成後は活用例を 3 校が共有することについて意見交換できた。
平成 30 年 7 月	第 3 回研究指定校打合せ (熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校)	中間報告会のリーフレット、パンフレット作成について、業者依頼や内容構成について協議した。新学習指導要領「小・中学部各教科内容表」の図画工作科、美術、体育の内容及び、完成・活用までの日程調整を確認することができた。
平成 30 年 7 月	講師招聘校内研修会「教科指導に関する講演会」	講師に福岡教育大学一木薫教授を招き、「知的障害特別支援学校における教科指導の現状と課

	(菊池支援学校)	題」というテーマで講演いただいた。教育課程、新学習指導要領、教科指導、自立活動、カリキュラム・マネジメントについて、わかりやすく具体的な内容を学ぶことができた。
平成 30 年 8 月	校内研修「一人一教科研究 中間報告会」 (熊本支援学校)	講師に熊本大学の菊池哲平准教授を招き、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくりについて研修を行った。三観点での評価を適切に行うための評価規準の整理・考え方についての専門性が高まった。
平成 30 年 9 月	校内研修「音楽科における『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業づくり」 (熊本支援学校)	講師に熊本大学の藤原志帆准教授を招き、音楽教育の指導・支援について研修を行った。発語が難しい児童生徒への音楽遊びの支援方法や器楽指導の実践例等、職員の音楽指導についての専門性が高まった。
平成 30 年 9 月	特殊教育学会の自主シンポジウムでの発表 (熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校)	熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校のカリキュラム・マネジメント推進のポイントについて研究成果を報告した。
平成 30 年 10 月	第 4 回研究指定校打合せ (熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校)	中間報告会のリーフレット、パンフレットの内容構成や中間報告会当日の運営計画について協議した。3 校の公開事例報告会の参加案内に係る日程調整や特殊教育学会での発表について報告を行い、中間報告会に向けた取組について共通理解ができた。
平成 30 年 10 月	講師招聘校内研修「国語科教育における授業研究会」 (菊池支援学校)	講師に熊本大学大学院菊池哲平准教授を招き、「授業参観における気づきと今後の授業実践の方向性について」の指導・助言を頂いた。題材計画、グループ別指導、主体的・対話的で深い学びの視点から各学部へ指導・助言を頂き、国語科を中心とした研究について大きな示唆を頂いた。
平成 30 年 11 月	第 5 回研究指定校打合せ (熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校)	中間報告会での各校の発表内容について協議した。各校が情報を整理し、活発な意見交換、発信となるよう検討することができた。
平成 30 年 12 月	第 6 回研究指定校打合せ (熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校)	中間報告会のパンフレット、リーフレットの内容確認と中間報告会の会場設営や運営計画等の細かな準備について協議・決定することができた。
平成 30 年 12 月	校内研修「一人一教科研究 公開事例報告会」	講師に熊本大学の菊池哲平准教授を招き、校内研究で取り組んだポスターセッションに対する

	(熊本支援学校)	講評や主体的・対話的で深い学びについて話題提供を受けることで、職員の教科指導についての専門性が高まった。
平成 30 年 12 月	校内研公開実践報告会 (菊池支援学校)	校内研究の実践状況を各学部間で共有し研鑽し合う機会として、実践報告会を設定した。この会は、他校へも公開し、多方面からの評価を頂くことにより、その後の研究活動や発表資料作成に生かすことができた。また、熊本大学大学院菊池哲平准教授を講師に招き、「知的障害教育における『主体的・対話的で深い学び』を実現する国語授業の在り方」について、指導・助言を頂いた。今後の研究の方向性について示唆を受けることができた。
平成 31 年(2019 年) 1 月	第 7 回研究指定校打合せ (熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校)	研究指定校 3 校の中間報告会に向けた準備状況の報告と中間報告会前日の準備や当日の係等、細かな動きについて共通理解を図ることができた。
平成 31 年(2019 年) 1 月	一人一事例最終報告会 (荒尾支援学校)	講師に熊本はばたき高等支援学校吉田道広校長を招き、ポスター発表についての助言及び御講話をいただいた。
平成 31 年(2019 年) 1 月	3 校合同研究「中間報告会」 (熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校)	知的障害特別支援学校のカリキュラム・マネジメントに関する研究について、研究指定校 3 校がそれぞれの実践について報告した。文部科学省から青木隆一視学官を講師として招き、新学習指導要領を踏まえたカリキュラム・マネジメントの推進について理解を深めることや参加者と研究内容やそれぞれの実践について活発な意見交換をすることができた。また、本研究の概要をまとめたリーフレットを作成し、当日の参加者へ配布することができた。
平成 31 年(2019 年) 2 月	研究会等参加 (九州地区) (熊本支援学校、荒尾支援学校)	自立活動フォーラム in 長崎に参加し、自立活動の指導について、理解を深め、情報を得ることができた。
平成 31 年(2019 年) 2 月	先進校視察研修、他校研究会等参加 (熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校)	鹿児島大学教育学部附属特別支援学校第 19 回公開研究会に参加し、カリキュラム・マネジメントや授業改善について、理解を深めることができた。
平成 30 年 12 月～ 平成 31 年(2019 年) 2 月	先進校視察研修、他校研究会等参加 (熊本支援学校、荒尾支援	平成 30 年度特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究事業指定校の大阪府立東淀川支援学校や京都市立総合支援学校 4 校

	学校)	合同研究発表会など、次期学習指導要領に向けた実践研究の状況やカリキュラム・マネジメントの重要性、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善について、理解を深めることができた。
平成31年(2019年)2月	第8回研究指定校打合せ (熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校)	1月26日に行われた熊本県立特別支援学校3校合同研究「中間報告会」実施後の評価及び反省等の協議を行った。また、3年次の研究についての方向性の確認やアイデア等について検討できた。

## (2) 研究課題

知的障害特別支援学校のカリキュラム・マネジメントに関する研究

～学習評価を指導計画につなぐ教育課程の構造化と各教科内容表の活用によるカリキュラム・マネジメントの充実～

## (3) 研究の概要

本研究では、教育課程編成を進める校内組織や手続き、年間計画等を整理することにより、知的障害のある児童生徒に各教科等を計画的に指導できるカリキュラム・マネジメントを進める。さらに、教科別の指導と各教科等を合わせた指導を効果的に組合せる等で「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を実施する。この目的を達成するために、今年度は主に以下の内容に取り組んだ。

ア カリキュラム・マネジメントを推進するために必要な事柄の目標設定及び評価の流れを表し、それらの関連を明示することで教育課程の編成・改善プロセスを共有し、一人一人の教員が関わる意識を高め、取組の共通理解を図った。

イ 各教科の内容を全体的に捉える資料(各教科内容表)を作成し、「学習指導要領を参照する手がかり」として、「これまでに指導した内容を振り返ったりするなど指導計画を作成する際の参考」として活用できるよう検討した。

ウ 各教科等の教育の内容毎に授業時数を配当した教育課程を検討するとともに、教科別の指導と各教科等を合わせた指導を適切に組合せる等しながら、事例研究を通して「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を図った。「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」とはどのようなものか協議し、指導計画や学習指導案作成の段階で計画的に反映することで授業改善につなげた。

## (4) 研究の成果

ア 学習評価をカリキュラム・マネジメントにつなぐことについては、授業評価を年間指導計画への評価・修正に生かす道筋を示し、職員間で授業評価・改善について協議を行う校内研究会を設定するなど、共通理解及び職員一人一人のカリキュラム・マネジメントへの参画を図ることができた。教育課程編成に係るスケジュールや体制、ツール等が、明確化したことで、担当者の役割が明確になり、カ

リキュラム・マネジメントに参画する職員の意識が高まった。

イ 各教科の内容を全体的に捉えられる資料「小・中学部各教科内容表」が完成した。単元目標や評価規準の作成、児童生徒の実態把握に活用することについて共通理解を図ることができた。

ウ 新学習指導要領の方向性や「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の方向性や三つの柱の理解を深めることができたとともに、新学習指導要領に応じた題材計画様式及び指導案様式の検討を行い、新様式による計画作成を進めることができた。

エ 平成31年（2019年）1月26日（土）に実施した3校合同研究「中間報告会」では、県内・県外の特別支援学校の職員等、350人を越える参加者があり、3校のカリキュラム・マネジメント推進のポイントについて意見交換することができた。また、本研究の目的、方法、指定校3校の取組内容等をまとめたリーフレットを作成した。リーフレットは中間報告会当日、参加者へ配布して説明を行い、研究の理解啓発を行うことができた。

#### （5）課題と今後の方策

ア カリキュラム・マネジメントの充実を目指した学習評価の向上

観点別に評価したことを年間指導計画や単元等の計画及び教育課程編成へ反映させる方法や卒業後の多様な情報を収集する方法の見直しなど、更に検討を深めていく。

授業評価の項目と評価のための各種ツールについて整理し、より活用しやすいものになるよう検討を進める。

イ 「小・中学部・高等部各教科内容表」の活用方法の共通理解

高等部各教科内容表を完成させ、小・中学部のものと関連させ、系統性を持たせるようにする。また、各教科内容表活用し、児童生徒一人一人の学習段階の実態把握を行い、職員間で共通理解を図るとともに、指導計画の作成及び学習評価、学びの履歴の把握を行う。

ウ 「育成を目指す資質・能力」の3つの柱を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現

教科別の指導と各教科等を合わせた指導を効果的に組合せるなどして、さらに有効な授業づくりプロセスを検討し、授業研究を深める。

題材や単元全体で「主体的・対話的で深い学び」を実現する指導事例を蓄積し、授業研究及び事例研究を深め、好事例を研究指定校間で共有する。

エ 本研究の成果を発信する場を設けたり、研究で開発した各様式等を他校に提供するなど、県内特別支援学校に研究の成果を積極的に広めていく。